



Vol. 37 No. 1  
2020. JUN



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jpn.org/>  
会長 高橋 敏弘  
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部  
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2  
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則  
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483  
E-mail akita\_ot\_kouhou@akita-ot.jpn.org  
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号  
TEL/FAX 018-837-0552  
E-mail akita\_ot@akita-ot.jpn.org

## 巻頭言 新型コロナウイルス(COVID-19)の 県士会の対応について

会長 高橋 敏弘

平素より、秋田県作業療法士会の活動にご協力、ご支援を賜りまして感謝申し上げます。

さて、令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言が出されるなど、会員の皆様の職場や生活にも大きな影響が生じていると存じます。このような状況の中、県士会活動も対面による会議と研修会の中止や延期の対応を取っており、会員の皆様にはご迷惑をおかけしております。

4 月に予定していた秋田県作業療法学会は今年度の開催を中止とし、次年度に同じ実行委員会体制を引き継ぐことになりました。東北学会は延期で 8 月以降の開催が検討されています。研修会につきましても年度の前半に予定していた研修会は中止か延期の対応となります。毎年行っていた OT 月間に合わせた高校生の施設見学も今年度は行わないこととしました。3 月に予定していた臨床実習指導者講習会に関しては日本作業療法士協会と厚生労働省の間で WEB 開催の検討がなされていますが、果たして秋田で WEB 開催が可能かどうか検討しつつ、開催時期と方法については新型コロナウイルスの状況を見ながら判断したいと思います。

コロナウイルス終息の先が見通せない状況の中で県士会事業をどのように行うかについての方針も確立できない状況ですが、会員に必要な事業のプライオリティを再検討する必要性を感じています。基本的には終息を待って通常の形で事業再開をしたいところですが、長期化を考えると ZOOM 等を利用した WEB 会議や研修会を取り入れる必要もあると考えます。事前に会員に対して意向調査を行った上で準備を進めたいと思います。

正直、ここまで長引くと予想していなかったこともあり対応に関しては後手に回っている

現状ですが、見方を変えると今後の県士会活動の在り方を再検討する良い機会かも知れません。シフト勤務で休みが不規則だったり、子育て世代の会員も増えている中で土日の研修会に参加したくてもできない会員が増えています。全ての研修会は無理ですが講義が主体の研修会はWEBによる開催やEラーニング形式の開催を取り入れる良い時期かも知れません。

今後もその都度の判断になってしまふことが多いと思いますが、会員の皆さまには対応状況について情報発信していきます。主にメールリストで発信しますのでまだ未登録の会員はこの機会に是非とも登録をお願いいたします。

幸い秋田の感染者は少なく、新規の感染もしばらく確認されていませんが油断は禁物です。国や県の方針をしっかりと確認し医療職としての自覚を持った行動をお願いいたします。

一日も早い感染の終息と皆様の健康と安寧な生活を心から願っています。

## 「サピエンス全史・上」

書評

【著者】ユヴァル・ノア・ハラリ 訳者：柴田裕之

【出版】河出書房新社【価格】1900円＋税【ページ数】267頁

大湯リハビリ温泉病院 三澤 幸

今回、私が書評として選んだ本は、ユヴァル・ノア・ハラリ氏の「サピエンス全史」という本です。以前、テレビで芸人さんがこの本を紹介していたため、興味を惹かれ購入しました。著者のハラリ氏はイスラエル人の歴史学者で、現在は大学で講義をしているそうです。また、最近では新型コロナウイルスと私たちの未来についてテレビやネット上で意見を述べており、彼を目にする機会が増えているように感じます。

本の始まりは約20万年前、想像もつきませんが、私たち人類の祖先といわれるホモ・サピエンスが著しい進化をとげたそうです。サピエンスは外見が私たちにそっくりで、脳も同じくらい大きかったとはいえ、道具を作るなどといったこれといった強みは持っていませんでした。しかし、ある時突然変異が起こり、「言語」を使って意思疎通をすることが可能になったそうです。なぜそうなったのかは分からないそうですが、これを「認知革命」とよび、この事がきっかけで私たちは生き残り、発展をとげてきたそうなのです。とはいえ、サピエンスだけではなくどんな動物も、何かしらの言語は持っています。ミツバチやアリのような昆虫でさえ、複雑なやり方で意思を疎通させる方法を知っており、食物のありかを互いに伝え合うことができます。それでは一体、他の動物と私たちの言語は何が違うのでしょうか？それは、私たちの言葉は驚くほど柔軟であるということです。

例えばある動物が敵を見つけたとして、「気をつけろ！ライオンだ！」と叫ぶことはできますがサピエンスは「今朝、川の近くでライオンがいたから気をつけろ！」とより正確に説明する事ができ、危機を回避するために仲間とコミュニケーションをとることができます。

また、それだけではなく、まったく存在しないものについての情報(虚構・フィクション)を作り、伝える事ができたそうなのです。世界各地にありふれている伝説や神話も、「認知革命」により初めて現れたようで、それを証明する物として頭はライオン、体は人間の形をした像といった歴史的建造物も発見されているそうです。このフィクションのおかげで、私たちは単に物事を想像するだけではなく、集団で情報を共有し、協力することができるようになりました。たとえ血のつながりのない他人でも、フィクションを通して意見を共有し、信頼関係を築くことができたのです。

本を読んでみて、大昔から私たち人間は「言葉」というコミュニケーションを使っていたということが不思議でしたし、様々な動物のコミュニケーションのあり方を学ぶことができました。言語的なコミュニケーションはもちろん、作業療法士として働いていると、失語症の患者様と関わる機会が多く、非言語的なコミュニケーションも必要になります。そんな時に言葉を通さずどうしたら信頼関係を築けるのか…と悩むことも多いのですが、その人に興味を持ち、その人らしさを忘れない生活を送ってほしいという思いを忘れずに作業療法士として働いていきたいと思いました。

最後に、拙劣な文章ではありますが、読んでいただきありがとうございました。

## シリーズ「作業療法と生活考」NO. 74

# 「ファクトフルネス FACT FULNESS」

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

最近では新型コロナウイルス感染症で、多くの生活や仕事で制限を受けています。その情報で振り回されている状況です。どのような情報なのか、どこが発表しているのか、その出典はどこかなど確認せずに受け取っていることも多いです。マスメディア、テレビなどのマスコミは分かりやすいように解釈して物事の全面ではなく一部分を切り抜いて誇張して報道されることも多いです。そして専門家と称する出演者が解説しています。専門でない出演者は主観や感情で述べていることも多いです。これらが悪いわけではなく、情報で混乱を招かないようにすることも必要です。

情報発信する側は、受手が誤解せずに理解してもらうことも必要です。受手は、その情報が確かなものなのかを確認することも必要です。しかし、人には情報を受け取る時に癖や傾向があるようです。そこで、一人一人がファクトフルネスの理解が大事になります。

今、「ファクトフルネス」の本がベストセラーになっています。啓蒙本にも近いですが一読するのもいいです。この本でのファクトフルネス (factfulness) は、人は物事を判断するとき歪曲してしまっていて判断することがあるとしています。そしてこれは本能だとしています。これにより起こる勘違い、思い込み、考え、行動を知ることの重要性を指摘しています。

この本では、本能を 10 種類に分けています。以下の目次を見るだけでも内容が想像できます。これで分かったとも思わないで、関心のある人は読んでください。

#### イントロダクション

- 第1章 分断本能 「世界は分断されている」という思い込み
- 第2章 ネガティブ本能 「世界がどんどん悪くなっている」という思い込み
- 第3章 直線本能 「世界の人口はひたすら増える」という思い込み
- 第4章 恐怖本能 「実は危険でないことを恐ろしい」と考えてしまう思い込み
- 第5章 過大視本能 「目の前の数字がいちばん重要」という思い込み
- 第6章 パターン化本能 「ひとつの例にすべてがあてはまる」という思い込み
- 第7章 宿命本能 「すべてはあらかじめ決まっている」という思い込み
- 第8章 単純化本能 「世界はひとつの切り口で理解できる」という思い込み
- 第9章 犯人捜し本能 「だれかを責めれば物事は解決する」という思い込み
- 第10章 焦り本能 「いますぐ手を打たないと大変なことになる」という思い込み
- 第11章 ファクトフルネスを实践しよう

私自身にもこれらが思いあたることもあります。皆さんはいかがでしょう。

私たちは様々な情報にさらされています。情報を鵜呑みにするのではなく、「自分の頭で考える」ことです。自分の頭で考えるには、やはり勉強が必要です。人の理解、世の中の原理原則を知ったり、信憑性の高いものに敏感になったりすることで、自分の頭で考えることができます。世の中には意図的に情報操作をしている方もおります。オレオレ詐欺は典型的なものです。SNS での誹謗中傷もあります。共有拡散や炎上させている方は、感情で反応していることも多いです。情報が確かなものなのか「ゆとりや余裕」が大事です。

専門家も意外と思い込みが強いです。この本でも専門家はその分野の知識はあるが、考え方に偏りがあると指摘しています。専門になればその分野の知識は増えていきますが、それを展開していく能力のパターン化、自分の考えを他分野でも応用しようとします。「分からない」となかなか言えないなどの態度や行動もあります。経験的や自分の直感で問題解決をしようとするのはヒューリスティックといえます。この手法は臨床ではとても大切なことです。ベテランや老人の知恵袋も必要なことも多いです。

しかし、本能や癖は結構頑固です。本人はそれに気づいていないこともあります。そこで、人はこれらの事があるのだと理解し、自分の行動を振り返るゆとりも必要です。我々作業療法士も専門家です。知識の更新とともに、経験的なことだけで説明するのではなく、裏付けをとる習慣もつけましょう。文献を読む、学会、講習会に参加する、発表する。知らないことは知らない、間違いは認めることも大事です。そして、自分の姿や考え・行動の傾向や癖を知ることは更に大事だと思います。一生学びですね。生きることは学びの連続です。

参考文献：ハンスロリングス著「FACT FULNESS」,日経 BP,2019 ¥1800

## 職場紹介

独立行政法人 労働者健康安全機構 秋田労災病院 田中秀一

皆さん、こんにちは。今回は大館市の東南部、米代川沿いの春の桜・秋の紅葉が美しい大滝温泉にあります。秋田労災病院について紹介させていただきます。

### <当院の歴史>

秋田県の県北は、鉱山で働く労働者の中に職業病である“じん肺”患者が多数発生し、それを専門的に診療する病院が望まれていました。そこで秋田県が厚生労働省（旧労働省）に労災病院の設立を陳情し、県北の鉱業地帯の中心である大館市に設立することになり、当院は昭和28年12月に内科、外科、整形外科の3診療科と20床で診療を開始しました。



### <当院の役割>

診療科は現在、整形外科を中心に、麻酔科、皮膚科、血液・腎・膠原病科、神経内科、スポーツ外来、骨粗しょう症・フレイル外来などの診療科に加え、勤労者医療としての勤労者脊椎・腰痛センター、治療就労両立支援部などの診療を行い、急性期・維持期の病床稼働数154床の診療体制で、北秋田地方における勤労者医療及び地域医療に貢献しています。現在、Google マップストリートビューにて、院内やリハビリテーション室内をご覧頂けます。当院HPからアクセス可能です。

### <リハビリテーション部>

リハスタッフは現在、作業療法士4名、理学療法士11名、言語聴覚士2名のスタッフにて、整形疾患・脳血管疾患・廃用症候群を呈した方に対して、入院・外来リハを行い、日々の臨床に携わっております。



### <最近の取り組み>

当院では平成30年5月7日より、日本リハビリテーション医学会の認定専門医による、脊椎脊髄損傷、重症な頸髄症、パーキンソン病、脳梗塞後遺症などの難治性神経疾患に対する特殊外来診療を開始しました。秋田大学整形外科、リハビリテーション科と協力し、ボツリヌス療法や上肢リハビリ装置 CoCoroeAR2、ハンド・リハビリテーションシステム NESS H200、フット・ドロップシステム NESS L300 などを用いた最新のリハビリテーション機器を利用する効果的なリハビリテーションを取り入れています。

### ＜回復期病棟の再開＞

本年度は脊髄損傷者などに対しての神経細胞の移植後の患者受け入れも計画しており、現在、休床している回復期病棟を再開し、脊髄損傷患者への再生医療後のリハビリテーションを行っていく準備をしております。

最後に、県北地域における急性期・回復期・維持期リハビリテーションの連携と充実により、地域リハビリテーションが生活機能の再建に役立てられるように援助していきたいと思っております。

### 編集後記

最近、コロナウイルスの話題が中心になっていますが、その一方で、私は花粉症によって目がものすごく痒くなり、目が酷く充血し、瞼が腫れるという出来事がありました。元々花粉症で毎年この時期になると苦しめられるのですが、ここまでになったのは初めてでした。本当に原因は花粉症だったのか、それとも何かのアレルギーだったのか未だに原因は不明です…。寒暖差が激しくなってくる時期ですので皆さん体調管理、花粉症対策をしっかりとしていきたいでしょう。(komatsu)

(一社)日本義肢協会登録  
東北 101 号



株式会社

千秋義肢製作所

義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>

SAKAIMEDY

立位移動補助具 アクティモ NR

actimoNR

早期活動を促す

新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社

[www.sakaimed.co.jp](http://www.sakaimed.co.jp)

東北支店 盛岡営業所

(青森・秋田・岩手エリア担当)

TEL : 019-656-5336

東北支店 仙台営業所

(宮城・山形エリア担当)

TEL : 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス

(福島エリア担当)

TEL : 024-927-0231